

ブルンジ月報（2019年2月）

主な出来事

【外政】

- 7日、350人以上のブルンジ難民がタンザニアから帰還した。
- 14日、中国支援で建設された大統領官邸がブルンジ政府に引き渡された。
- 22日、アフリカ連合（AU）は、ブルンジ兵士1,000人のソマリアからの撤退を命じた。

【経済】

- 20日、在ブルンジ日本国大使館は、ブルンジの学校給食用に250トンのサバの缶詰を寄贈する。

※以下は、明示したものを除き、ブルンジ・オンライン・メディア Iwacu の報道を取りまとめたもの。

【外政】

●タンザニアからのブルンジ難民の帰還（8日）

7日、帰還を予定している1,000人のブルンジ難民のうち350人以上が、タンザニアのドゥッタ及びムテンデリ難民キャンプから自主的に帰還した。この107家族は、UNHCR職員及びタンザニアの安全保障担当官に同行され、ギスル国境でUNHCRと内務省担当局長によって出迎えられた。帰還した難民は、食料などの支援物資に加え、大人一人につき7万ブルンジ・フラン、18歳以下の子ども一人につき3万5,000ブルンジ・フランの支援を受ける。UNHCR及び関係機関は、2017年8月よりブルンジ難民の自主帰還を支援している。

●中国支援による大統領官邸の引渡し（15日）

14日、駐ブルンジ中国大使は、中国が建設した大統領官邸をブルンジ外務省及び第2副大統領に正式に引き渡した。リー（LI Changlin）中国大使は、ブジュンブラの北部ガセニ地区に建設された同大統領官邸について、「2年半かけて建設した官邸は、中国がブルンジで実施した偉大なプロジェクトの一つであり、両国間の友情と協力の象徴である。」と述べた。2018年12月、両国は外交関係55周年を迎えた。

●東アフリカ共同体（EAC）ほかに対するブルンジの負債（22日）

21日、シンディムウォ（Gaston SINDIMWO）第1副大統領は、国会にて、ブルンジは、EAC及びほかの関係機関に対し、1,000万米ドル強の負債しかないと述べた。しかし、2018年12月、EACは、ブルンジを南スーダンに次ぎ2番目に多額負債のある国とし、その額を110億米ドル以上と報告している。

●ブルンジ兵1,000人のソマリアからの段階的撤退（22日）

21日、ブルンジ議会上院及び下院は、28日までにソマリアからブルンジ兵1,000人を撤退させるプロセスについて議論した。ブルンジ議会は、AU平和・安全保障理事会の決定の修正を要求した。ンタホムヴキエ防衛大臣によると、200人の第1陣が21日に、残りの800人は28日にブジュンブラに到着する。同大臣は、ソマリアに駐留する全ての部隊が2021年までに段階的に撤退する予定であると述べた。ブルンジは5,400人の部隊をAMISOMに派遣しており、6,200人を派兵するウガンダに次ぎ2番目に大きな貢献をしている。

【経済】

●日本政府から約5,000トンの米の供与（20日：オンライン・メディア PPBDI）

19日、ブルンジ政府は、日本政府から供与される約5,000トンの日本米を受け取った。ルレマ農業大臣は、見返り資金を生み出す今日の米の供与は、良好な二国間関係を表していると述べた。450万米ドルに相当する約5,000トンの米の売上げ代金となる見返り資金は、財務大臣と協議した上で、カジェケ灌漑用ダムの建設に充てられる。同ダムの建設により、3,000ヘクタールの農地が開墾され、農業生産性の向上が期待される。ルレマ農業大臣は、日本大使に対し、見返り資金は、良好かつ透明性があり、高い結果を出せる案件に利用する旨約束した。

●日本政府による学校給食用サバ缶の寄贈（20日）

在ブルンジ日本国大使館は、国連世界食糧計画（WFP）に対し、ブルンジの学校給食プログラムに使われる250トンのサバ缶の寄贈を約束した。170万米ドルに相当する同プロジェクトは、300校の小学校に通う27万人以上の児童が、12か月間以上利益を得る。

（了）